

大豆情報

(第1号)

令和5年4月14日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

～「売れる大豆づくり」を基本に、高品質で安全・安心なあおば大豆を生産しよう。～

1. 実需者ニーズに対応した高品質大豆の安定生産 ⇒ 10a 当たり収量 200kg 以上
⇒ 大粒比率の向上
2. 効率的な生産体制の整備 ⇒ 水田の有効活用による作付面積拡大
3. 「安全・安心」な大豆生産 ⇒ 「とやまGAP」の実施及び栽培履歴記帳 100%

《播種前の重点対策》

- ・ 4 月中に額縁及び基幹排水溝を確実に設置し、ほ場を乾かす。
- ・ 透水性の悪い圃場では、ほ場が乾いた状態で心土破碎を実施する。
- ・ 大豆は酸性土壌を嫌うので、苦土石灰（粒）を必ず散布する。

1. 排水対策

～ 排水対策の手順 ～

効果的な排水改善対策

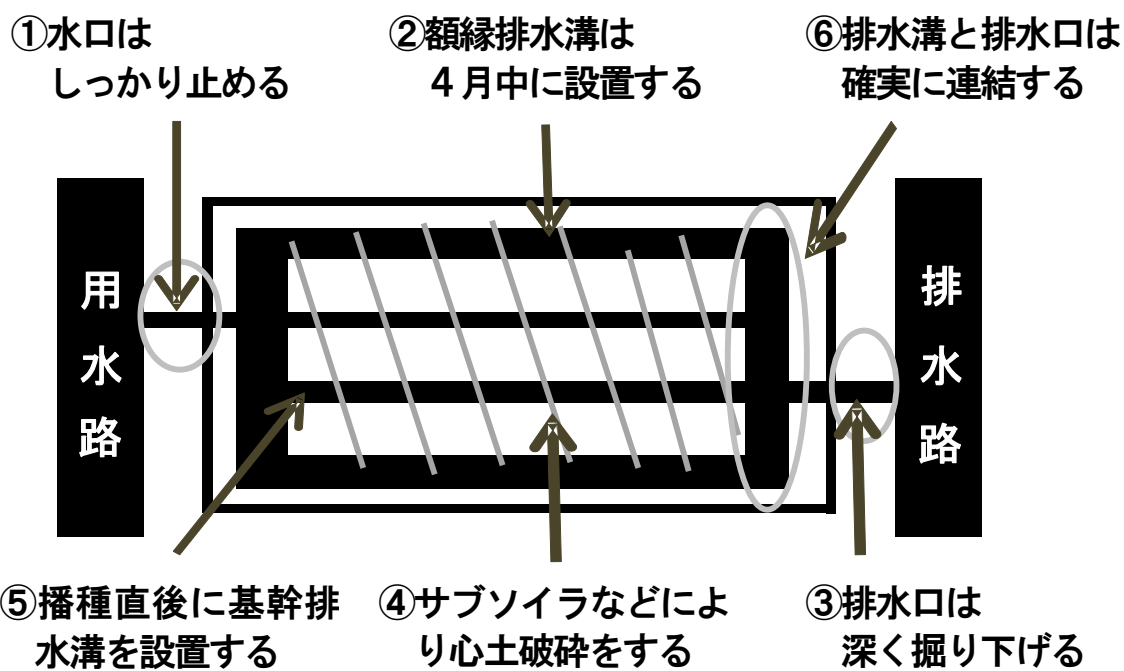


写真 不耕起地帯設置

○ 湛水田隣接ほ場や雨水が流入するほ場では、上記の様に額縁排水溝の内側に不耕起地帯を設置することで水の流入を防止する。

2. 土づくり

～ 有機物の施用と土壌 pH の矯正 ～

- 地力増進のため、堆肥や発酵鶏糞等を施用する。
- pH6.0～6.5 になるように苦土石灰（粒）を、100kg～200kg/10a 必ず散布する。
- 赤土客土田ではリン酸が足りないため、「粒状ようりん」を施用する。

<10a 当たり施用基準>

	資材・肥料名	10a 当たり施用量	
		一般田	赤土客土田
土壌改良資材	苦土石灰(粒)	100～200kg	
	粒状ようりん	—	20～40kg
堆肥	牛ふん堆肥、豚ふん堆肥、籾殻堆肥	1～2t	
	発酵鶏糞	75～150kg	

《播種前後の重点対策》

- 必ず「クルーザーMAXX」により種子消毒する。
- 丁寧な「耕起・碎土・整地」により「出芽・苗立・除草剤の効き」を改善する。
- 耕起、施肥、播種、除草剤散布の一連の作業は1日で終わる。
- 湿害を防ぐため、額縁排水の手直し、排水口への連結を行う。

3. 病害虫防除

「クルーザーMAXX」による種子消毒で初期病害虫をシャットアウト！

薬剤名	処理法	対象病害虫等
クルーザーMAXX	乾燥種子 1kg 当たり 原液 8ml 塗抹処理	アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ 茎疫病、リゾクトニア根腐病、苗立枯病、紫斑病 等

※ クルーザーMAXX塗抹時にタルクは不要です。（詳細については、営農経済センターへお問い合わせください）

4. 播種の準備と目安

～栽植本数をしっかり確保し、収量アップにつなげましょう～

- ① ほ場が乾いた状態でゆっくりと耕起し、碎土率 60%以上を確保する。
- ② 品種や播種時期に応じ適正な播種量になるよう播種機の日皿やスプロケットを調整する。
- ③ 播種作業の速度が速いと欠株がでやすいので、ゆっくり歩く程度の速さ（0.5m/秒）で行い、播種深度 3cmを確認する。

＜播種時期別の大豆播種量＞ ※地力の高いほ場等で青立ちが懸念される場合、6月上旬からの播種とする。

品種	播種時期※	成熟期の 目安	条間 (cm)	栽植本数 (本/10a)	播種粒数 (粒/m)	播種量 (kg/10a)
えんれいのそら	5月25日頃～6月上旬	10/8～	80	14,000～16,000	14～16	5.3～6.0
	6月中旬	10/18頃		16,000～18,000	12～14	6.0～6.8
シュウレイ	5月25日頃～6月上旬	10/12～	80	12,000～15,000	15～19	4.9～6.1
	6月中旬	10/22頃		15,000～18,000	12～15	6.1～7.4
オオツル	6月上旬	10/20～	80	10,000～12,000	19～22	4.2～5.1
	6月中旬			12,000～14,000	16～19	5.1～5.9

(1株大粒2粒播き・苗立率90%の場合)

＜基肥＞

(10a 当たり)

資材名	施肥方法	一般田	赤土客土田	麦跡※
BB084	側条施肥	20kg	30kg	40kg
	全層施肥	24kg	36kg	48kg

※麦跡大豆の留意点

麦稈の腐熟を促すため、左表のとおり増施する。

＜除草剤＞

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用方法	10a 当たり散布量
ラクサー粒剤	一年生雑草	播種後出芽前 (雑草発生前)	全面 土壌散布	4～6kg
ラクサー乳剤 ※	一年生雑草	播種後出芽前 (雑草発生前)	全面 土壌散布	400～600ml (水 100ℓ に希釈)

※ 最大量(800ml)の散布でツユクサに対して効果が期待できます。

また、播種後の除草剤散布時(乳剤のみ)にゲザガード50を混用することで、帰化アサガオ類等の難防除雑草の発生を抑制する効果が期待できます。(散布液量100ℓにゲザガード50を150g混用)

詳しい使用方法等については各地区営農経済センターへお問い合わせください。

5. 播種後の管理

～生育量を確保するために排水対策を徹底しましょう～

出芽期に湿害にあうと生育量、収量の低減に大きく影響するので、播種後は排水溝の点検、手直しと排水口への連結を確実にを行い、初期の排水対策に努める！！

作業後は、栽培履歴簿に作業内容をすぐに記入しましょう。